

近畿地方では潮岬まで行っても食分はわずか0.025、日食めがねを通して肉眼で見ただけでは、欠けていることすら分からないかもしれません。

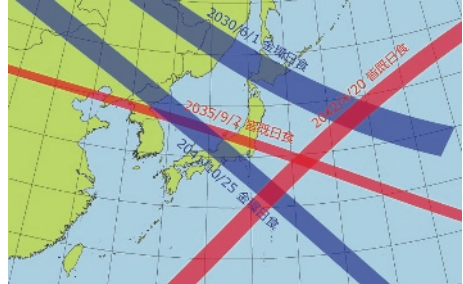
2030年以降は日食ラッシュ

残念な話ばかりですが、2030年以降は大いに期待がもてます。

まず、2030年6月1日、大阪で10年ぶりに日食が起こります。この時、北海道全域では金環日食となります。2012年に大阪でも金環日食が見られましたが、その時と同じように大きな話題になるでしょう。

そして、2035年9月2日、北陸から関東にかけての地域で、皆既日食を見ることができます。前回日本で皆既日食が起こったのは2009年でしたが、この時陸地で見られたのは南西諸島の島嶼部だけでした。日本本土だと1963年の北海道が最後なので、実に72年ぶりということになります。

その後も、2041年には中部地方で金環日食、2042年には日本近海で皆既日食と、日本付近で皆既日食・金環日食が続きます。



日本付近で見られる皆既日食・金環日食

オーストラリア・ニュージーランドもお勧め

さらに地球全体で今後日食が起こる場所を見てみると、特にオーストラリアとニュージーランドで頻繁に皆既日食・金環日食を見られることが分かります。

2023年にごく一部の地域ですがオーストラリアで皆既日食が見られ、2028年以降2030年代にかけて、オーストラリアでは4回、ニュージーランドでは3回皆既日食が起こります。ニュージーランドは日本の7割ほどの面積の国ですが、短い期間内に多くの地域で皆既日食が金環日食が見られ、どちらも見られない地域の方が珍しいぐらいです。

テカポ湖の星空と合わせ今から旅行の計画に思いを巡らせてはいかがでしょうか。



オーストラリア・ニュージーランドの日食

江越 航(科学館学芸員)